恰野集

戀上

特別
イ 4
3163
31(7)

貴
イ4
3163
31(7)

戀

忍不言恋　初恋（ちぐさるこひ　つぶやくこひ）　不言恋　不言出恋　未言出恋

難言出恋　觀身不言恋　思身程不言恋　欲言出恋　欲出詞恋

言始恋　不洩思恋　洩始恋　言出恋　初言恋

忍ツル恋　詞出恋　和詞恋　曰詞荒恋　言出後悔恋

忍ル人恋　忍久恋　忍経年恋　忍涙恋　知身忍恋

依忍難逢恋　難忍恋　依忍増恋　忍切恋　隔河忍恋

初聞恋　乍洩忍恋　夢中忍恋　不聞恋　聞恋

聞久恋　立聞恋　聞音恋　聞聲恋　久聞恋

遠聞恋　初見恋　見恋　未見恋

欲見恋　且見恋　僅見恋　繞見恋　不見恋

近見恋　見独居恋　乍見隠恋　稀見恋　見衣恋

夢見恋

夢中見恋　白地恋　恋書　初遣書恋　通書恋
忍傳書恋　忍通恋書　稀通書恋　不見書恋　返書恋
被返書恋　送書待恋　見書恋　見手跡恋　不見文恋
不返事恋　無返報恋　初見返事恋　適見返事恋　見返事無字恋
違文恋　失返事恋　散文恋　別無書恋　歸無書恋
不通書恋　尋恋　尋所縁恋　尋縁恋　忍尋縁恋
初尋縁恋　睦縁恋　遠尋恋　尋失恋　尋空恋
尋不遇恋　不尋得恋　祈恋　祈請恋　祈神恋
祈佛恋　祈久恋　久祈恋　經年祈恋　祈神増恋
祈身恋　依恋祈身　祈難逢恋　祈不逢恋　祈空恋
誓恋　念願恋　憑示現恋　契恋　恋契

契後恋　契行末恋　契来世恋　契他生恋
契誓言恋　憑契恋　途中契恋　夢中契恋　契久恋
契後ノ恋　契經年恋　幼年契恋　契ヶ人恋　契夏恋
契暮秋恋　契月夜恋　契日中恋　契ヶ恋　契今夜恋
契明日恋　契不来恋　雖契不来恋　変契恋　契衰恋
契絶恋　契後絶恋　契空恋　契違約恋　悔前生契恋
馴恋　一所恋　憑恋　不憑恋　憑偽恋
憑詞恋　憑深言恋　憑不来恋　憑人妻恋
誂恋　推量恋　毎夜憑恋　成疑心恋　疑真偽恋
疑真恋　疑行末恋　疑恋　未遇恋　見不逢恋
雖見不逢恋　忍不逢恋　不逢恋　馴不逢恋　憑不逢恋
依忍難逢恋

尋不逢恋　逢難恋　近不逢恋　契不逢恋　不来恋
来不留恋　来不留　夜不留　来不會恋　乍来不逢恋
行不會恋　不逢歸恋　通不遇恋　過門恋　過門不告恋
過門不入恋　立門恋　立門空曙恋　不開門恋　偽恋
悅偽言恋　待恋　待使恋　待便恋　忍待恋
乍立待恋　不憑待恋　暁待恋　夕待恋　薄暮待恋
毎夕待恋　夜〻待恋　連夜待恋　毎夜待恋　歴夜待恋
待夜深恋　深夜待恋　久待恋　經年待恋　遠境待恋
待百夜恋　不堪待恋　待不来恋　待空恋　絶後待恋
不待恋　違約恋　當夜違約恋　臨期変約恋　臨期変約恋
乍期違約恋　契違約恋　逢恋　初逢恋　俄逢恋

不慮逢恋　忍逢恋　夕逢恋　初夜逢恋　夜深逢恋
及暁遂會恋　待遇恋　逢切恋　逢後切恋　會後恋
會後忍恋　旅逢恋　旅宿逢恋　梦逢恋　夢中逢恋
夢中會恋　絶後逢恋　絶後會恋　會後祕恋　稀逢恋
適逢恋　邂逅會恋　時〻逢恋　隔夜逢恋　稀會不絶恋
臥無實恋　乍卧無實恋　来無實恋　會無實恋　逢無實恋
語〻恋　無二語恋　不語終恋　別恋　欲別恋
逢別恋　忽別恋　急別恋　忍別恋　契別恋
互別恋　厭別恋　惜別恋　深更別恋　暁別恋
惜暁別恋　恨別恋　恨鳥別恋　遠別恋　夢別恋
別不知恋　歸恋　暁欲歸恋　朝歸恋　深夜歸恋

深更歸恋　雨中歸恋　從門歸恋　空歸恋　喚不歸
忍歸恋　隨恋　後朝恋　後朝恨恋　後朝切恋
厭後朝恋　後朝顯恋　後朝增恋　違不逢恋　逢不逢恋
逢後難逢恋　逢後難期恋　一會後不遇恋　別後難期恋　會後不會恋
世君後會知何日　絶不逢恋　逢後不通恋　名立恋　歎名恋
惜名恋　惜人名恋　不惜名恋　無名立恋　歎無名恋
隱名恋　顯恋　欲顯恋　淚顯恋　依淚顯恋
絶後顯恋　顯絶恋　增恋　漸增恋　馴增恋
逐日增恋　隨日増恋　送日增恋　雨中增恋　入夏增恋
月增恋　夢後增恋　依哥恋增　聞鹿增恋　鹿聲增恋
虫聲增恋　逢增恋　逢後增恋　增思恋　切恋

恋切　恋切恋　懇切恋　厭恋　厭身恋
厭賤恋　被厭賤恋　被厭老恋　被厭恋　悔恋
後悔恋　別悔恋　絶後悔恋　見形厭恋　悔前世恋
疎恋　変恋　漸変恋　恨後悔恋　逢後変恋
変契恋　不変恋　晩風催恋　俄変恋　風聲催恋
郭公催恋　秋風催恋　觸物催恋　恋催舊意　稀驚恋
時ゝ驚恋　絶後驚恋　爭恋　驚恋　有妨恋
被妨人恋　恋爲後世妨　恋妨道心　負恋　隱恋
乍在隱恋　隱在所恋　不言在所恋　恋妨菩提　在所不定恋
不知在所恋　忘在所恋　不知栖恋　不令知栖恋　漸稀恋
稀問恋　稀通恋　久恋　稀恋　舊恋
舊事恋

恋上目四終

近恋　近隣恋人　遠恋　意遠人　隔恋
隔一夜恋　隔二夜恋　隔日比恋　隔月恋　隔年恋
隔年序恋　隔簾恋　隔山恋　隔川恋　隔閑恋
隔閑路恋　隔路恋　隔遠路恋　隔海恋　隔海路恋
隔霞恋

恰野ノ集巻之七

恋

恋之部上

男

古ひのたまつと見ぬれそめし山のもづくかあらはす　拾遺　石川郎女

郭公なくやさつきのあやめぐさ根をしたるとしるしするかな　讀人不知

後

ふる雨をことぶきにせんあやめ草　人立

結

現りでやこぶらるる美とのくもまどひにやるるくらけん　延喜御製

あひ見でもをかし拾遺いつのまふかうひて人の恋しかるらん　讀人不識

〃　家やらむ人やつまとちをやづる神よりとひてしがふ　同

〃　人をだつつき拾遺といひ恋てそそうどらかで恋しき　同

千　神を祈ぶ神に行てもうせねちう拾遺　和泉式部

〃　やをもくもいえば恋ぶてりは家ぬ恋ぶ　喜小路社更すぐらうん　公

〃　恋の月をすさびてもまていかに人の名ぶをあぶ見ぬ拾遺　公

物　分のとり人のかんとちらねすやとことぶを恋ぶ恋のみぶ　中務

〃　いくせんちぶ拾遺ぬ恋ぶ恋ぶ恋ぶ恋ぶ恋ぶ恋ぶ恋ぶ　家隆

月 はるさめのふりてあらしきこのあぐさめもぐる 経正
代 おもひかんの浪のはまかぜやいのねはらへで 三条国
〃 おぢつるかたまゆをくれつゝ紅葉せぬかつ〻 資賢
〃 今さらにいとはずき野枕とのみとせい待ひねやと 源頼政
男 かをぶ山鶯なるをのおのしくもとゝねんすとゝるねたる 中臣女郎
〃 ちぢつくと響のゝせるいさら火のかふうん家もとゝむ 宗持
指 おもづるも誰ゆをおもねりのうれば今は何をか思ふ場そん 公誠
〃 いさやまぢ雲そゝくこゝもちもくかうやそうる遠いそねうる遠 後人
〃 ゝうぐかえもゝせそひぐさ人もれぐゝ人の笑ひ出ずい 邦正
後撰 らのゝよもちもてゝぐるを長たみのうちふゝゝん我 後朱雀院
〃 東れんの笑世ふきる特落ちのやさぐや松すゝうを 経章
金 笑ゝえねん計ゝづむれど浪ゝえうう恵ぐうん 国信
〃 うゝ笑てゝいゝゝんをゝるやゝそ恵の笑ゝ紅せつるる 良選
韵 ゝゝゝゝゝゝたゝ初る 後朱のちぐゝゝたゝ 良房

初恋
そぐ
はぐ

千 羅波河の藻小切ふく玉柏 紅だゝ人城ちえぐや 雪ゝう
〃 ゝゝをゝいつゝ知る秋ゝ浪ぐゝのゝるぐ知ゝる 能因
〃 まぐゝゝね人をゝぐゝて長ゝゝんゝ長ゝるぐせよ 紀友
〃 いゝふゝんゝいを人ふゝそゝちぐゝ笑ふ出ぐゝとゝゝを 猪仁親王
野 新ゝ考をぐきゝぐ新の笑ゝふまぐふ知ね抽我社ゝ 法性寺入道
〃 生の笑りんいゝゝぐゝふゝぐゝ人をゝいゝゝる 正義門
初 ゝのゝゝゝゝ笑ゝ更ゝおゝ笑ゝずゝぐゝ抽ゝゝ紅ゝ 和泉式部
〃 笑ふ出ゝ今ぐ初ゝる人ゝれずゝいゝぐゝる人ゝ我 出義公
〃 出のゝゝぐゝ小舟の笑ゝ人をゝるゝゝ初ふ袖ふ 源仲
〃 ゝゝまゝゝゝ川ゝの浦ふゝふぐゝ舟のゝふふ出ぐゝ長ゝる 重俊
綾 ゝゝせぐゝゝぐゝ人ゝ我世笑ゝ船ゝむすぐ長ゝ汗ふ 俊恵
代 長ゝ長ゝいゝゝゝ知ゝる波ぐ長ゝのゝぐゝゝん人ゝふ 牧綱
ひとたぐゝ笑ゝとゝふゝる我ゝゝんぐゝぐゝぐゝぐゝる 源頼政人
〃 ゝゝるゝぐゝゝゝゝゝゝどゝ笑やさゝわゝゝるぐゝゝゝ 右衛門内侍

代 あること やすらぐ ことの ふまで ぎの ふまで ぎの ふまで ぎ

後拾遺 悲びつゝやまんとうハかるとだり人ハかゝ知せん　新古今　経仲
金　たゝせぞやちのゝまゝ沢ハ紅ひぢて七郷の宿ゝ人を
続　ハのぢまゝ　ゝ　ゝ　

言出後悔恋

忍ぶる恋

〃 あさぢふの小山田小柴しゝ高のたゝをまくる　季定
〃 後拾 ちはやわまりいひ出る初小数うねる方をまくる人かられねる　左命
〃 物 行出でゝ見れば畑をゆくに苦しまをも数々人の形　数を聖王
〃 男 そゝ落ちかいさんに出ぬ恋をするかゞ泣ひの　續人志
〃 きぐひと目のみらく人ゆえ　せどうう
〃 いふして恋だら恋ふ恋ふ恋の涙ぞ　〃
〃 こゝろのこゝ見ぬ恋をこゝろの恋ふ恋ふ　〃
古 清草の小野の篠原忍ぶれど人ぞ知るべき　〃
〃 思ひぐ聲ふ恋ふ恋ふ涙のみこそ下ふ恋ふれ　本文
後 清ぢの小野の篠原忍ぶれとあまりて恋ふ人の恋ふ　等
後拾 人知れぬ恋ふ恋ふまぬ人の涙のうらこゝろ　寛方
〃 忍ぶれど色に出でぬ人のとまで色出ぬ　〃
〃 言ふ人の恋ふ恋ふ人の涙ぞ　元輔
〃 世の中は恋ふ恋ふ恋ふ人やうるく　〃 後拾人

〃 恋ふ恋ふ人ふ恋ふ人ふ恋ふ恋ふ恋ふ人ふ恋ふ　広見
〃 ふ恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ人の知ることを偽よ　後拾人志
〃 くれなゐの恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ人ふ恋ふ　〃
後拾 人ふ恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ　〃
金 岩川のこゝ水ふ恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ　古大西
〃 恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ　実り
千 恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ　現房
〃 恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ　光行
〃 恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ　彩政
〃 恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ　別当
〃 人ふ恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ　堀川右
〃 恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ　頼補
〃 恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ　久我内大
〃 恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ　家雅公
〃 恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ恋ふ　三河

手
いふかたんらのやうにまふかぬとぞ思ふまぐん
〃難波女のたくみ燒火の下ぐれよりはれて紅の分ける
形
えんごりて沼の宮ぎきはるめだいうなひまふかぬ秋で
〃唐衣紐ふ人めはたるめどもあるこそのはるこそ
〃思ぶるふかのひまはたるんどに秋するそのは涙ちり宮
〃恋てよいもぐらのゆくべきかたもやゆくべきかたもやゆくべきかたもや

忍久恋　　和泉式部

忍経年恋　　敦忠

忍涙恋　　小野宮太政大臣　伊尹

千　恋しさをうたがうとて　たえにたるこんのうちに
初　いそぐらに　和かあまりば　恋ゆゑいそぐらひ
　　不識讀人

　　伊勢

　　後人云

　　通忠

　　敦忠

　　伊尹

　　後人云

　　式子内

　　ヒ愛

　　後人云

　　和泉

　　後人云

　　和泉

　　後人云

　　和泉

依忍増恋

忍ヲ切ル恋

後徳人家
馬内侍
蓮生
常縁
大納言
業平
〃継
経盛
忠通
友則
不識録者
式子内親王
雅経

後法性寺
後人家
定快
経家
〃後後人
前太政
後後大寺
小町
経母
友則
讀人不知
美濃
後人家

南河恋
依忍難逢恋
乍浅忍恋

義中忍恋

不聞恋
関恋

初関恋　後人之後
忘吟恋　上総
聞音恋　亀山
吟聲恋　弘輔

（後）雲ゐより鳴りくるわたる郭公　ゆ波後人
（古）石しきの大宮ちかき川すれば君が吟波ゆる　元方
（後）吉野山ちかき吟たきわく坂の実のなるふ年を　貫之
（後）見てとのこ吉野の山の郭公きくふゆえてわびぞ泣れ　後人之恋
（後）知らるや今こそ人をとものの面ふ拍ちてとなく初ける　頼信
（後）つぎまをとなのこゆえんこそ海のこぶ代海の音　後人之恋
（後）恋ふら我身ぞ吟まを篇のこびい色とまをまを　
（後）ゆ吟ぞや筆きまるとする月代雁々ものでこえ　
（後）一筆こ人之雁とにをのうこのそれる色もすふ　伯大寺
（物）日新さ後をとの器こそ吟ふうこのそなる物を社こく　高遠
（後）秋ゆ代を筆の前知すつ代ぞのるをの人ゆやもんと　業平
（後）ぞれこの吉日ふまぐ人ぐこそ代ぐらとらぐ人ふ色ま　読人不知
（後）分小迫ま色代ぐ新こ一度奥の衣れ河とこそゆ波　

恋上九

久吟恋
関久恋
遠聞恋
初見恋
見恋

未見恋　　経衡

不見恋　　邑生

〃　　西宮前左

〃　　ふ後後人

〃　　愛之

〃　　友別

〃　　後人ふ知

〃　　元方

〃　　忠房

〃　　詠者不知

〃　　西宮前左

〃　　後人ふ知

〃　　業平

〃　　後人ふ知

歌見恋　　後人ふ知

旦見恋　　俊光

懐見恋　　ふ後後人

〃　　ふ上総

〃　　清輔

〃　　駿河女王

〃　　不識作者

〃　　業平

〃　　後人ふ知

絶見恋

古 加茂が社の名まがなしと思へる業平朝臣 忠岑
〃 山桜咲きまさるかの小ぶねにて人こそ見えぬうらなれ 貫之
後 ぐるぐるかうら計ぬや浪千るりと知ねる小まどん 等
拾 義ちらとはけるものいうぐるのかのかこそ新ぐ浪後人
〃 ちらかそもるか小地と花落ほのかこそ人ぐ見しまる 小野宮大政
〃 あれ恋〜こうふ人をこぐの泡消ぐるとちせたぐる 好忠
新 定義の名まか袖ぐ浪義ぐ初のかこそ人ぐ見しき
勅 山の風長雨てちのかとかこうる 伊世
〃 春は波の人はかまこ初義ぐこうふこそ人ぐ見しま 家隆
〃 おのづこり今の月をこうふ初かこ人ないぬぐ小ぐん 清輔
〃 ぐるぐるこの一月こうふやの平くとちれを妹かとる 不識読人
〃 夕月を郷ふ人をこそこうふ天雲こそれぬこそすも
千 澤ぐ比史の夜まがるいこう舟ちあるかふい初ぐ 長能
代 岩源人岩ぐかれりふ新計こそ袖ゆ世とや 俊実

見衣恋
近見恋
見独居恋
衣見隠恋
稀見恋
義見恋

義中恋
白地恋

代 ふ袖ふ光を世ぐ浪のまふ学こうふこそ袖ゆ袖ふ 大納
〃 吹ぐる学の浪まふこそこうふ舟ハ風ぐまこそ 隆季
新 世ぐやまぐふかこうふ袖ぐ月に入ゆるあゆ袖ハ袖ぐと 高松宮
後 まぐこぐ世きをるいうこんどこうぐ花ハ袖ふ袖きこうぐ 後人ふ初
続 人ふこれをこそ入ゆを暁まぐふ月こうや世こん 御製
後 歌こんぐ袖ぐ入ゆる義ふこうなぐ浪のこ袖ゆ年 〃実人宮之
〃 新こるゆここ(ぐうゆ)ふ袖ぐこうふ袖の袖のこうゆ
万 袖ぐふいふくこるこぐれ時ぐこうぐふいゆふこゆる 市原王
〃 こここり月ぐ光こうぐ一月おこう一人のいゆふ見ゆる 安都能娘子
〃 あき袖ゆこ袖ぐれこゆのゆこふ袖ぐ義ぐ義ぐ五ぐ 〃後撰読人
千 けこゆ袖ゆ枕実ゆこうこゆ袖ふ袖のふまこう義ぐ五ぐ 式子内親王
古 ゆるこの義ハ浪ふゆこわここ小ゆこうこ袖ここうる 世尊之
後 ぐるぐるこのかぐれふこれハ夕義ぐ義ぐこのみぐ分ぐ袖ぐる 不識読人
続 ふ一程の義こうこゆ世ぐふ袖ぐこうゆ袖ぐ袖ぐる 伊周公

恋書　　題輔
初遣書恋　　名寛
通書恋　　牡政
忍傳書恋　　別當
忍通恋書　　有房
稀通書恋　　定文
　　後朱
　　東三条
　　女院使人
　　〃
　　家寛
　　右大臣
　　使人ノ方
不見書恋　　美濃
返書恋　　信濃
被返書恋　　宰相内侍
　　寛方
　　使人ノ方
　　道経
　　雅頼
　　頭国
　　不識読人
　　経正

送書待恋　隆孝
見書恋　経隆
見ぬ事訴恋　空人
不見書恋　性寂
返る事恋　愛方
返報恋　実氏
無返報恋　赤染
初見返る恋　清性
適見返事恋　朝光
見返事無字恋　勝春
遠文恋　俊人
散文恋　道勝
失返る事恋　俊人
別れ書恋　延喜御製
帰去恋　右京

不通書恋　　右馬頭　頼政

尋恋　　後鳥羽院

尋不逢恋　　藤原定家

尋縁恋　　後京極

思尋縁恋　　俊成

初尋縁恋　　長方

睦縁恋　　俊重

遠尋恋　　能因

尋失恋　　定久

尋空恋　　左大臣

尋不遇恋　　忠義

不尋得恋　　時昌

祈恋　　俊宗

祈請恋

祈社恋

野 歳経て家ゐ水とれて貴布川神小もちる拙ゐてん　摂政
〃 清掃するなら小川の河風小初ぞ吹る恋こ小清ぶと　八代女王
代 ちこそぐる神の手向のゆふぎすきこそ人のいと　愛之
〃 久方の天照神のゆふぐ初ぞ歳を経る年　宮内
〃 うら衰ぬつの河小ぶ神さび渡る家ぐ小ひ小　主優
〃 ちちぶ山のも向小ねさ恋てわちん命小神ぞ　前大政
摂 大系の神と言ふん家恋小氏人のかちち年　摂政
小 初て祈ぞ吹る初瀬川うれ小きせ小すぐれ小やと　後人小知
月 いとぐく神とぞ祈むわ小ひ家ちつる東河きと　朱助
〃 瀬のみ久とてすまべいうち小ねぐれ小ちちん　後人小恋
〃 くんぐ小ちちとぞ祈つる八百万の神のまふく　伊衡
小 みぐちの神しまこの神うれ小ぶ家ぐ恋とち恋る　〃美人
〃 祈る恋小ぐすき拙とぞ小ちの神ようれ小て恋せ　〃
〃 ぐ家小

祈仏恋

祈久恋

久祈恋

路祈恋

祈神恋

祈分恋

仮恋祈分

祈鹿倉恋

祈不逢恋

祈空恋

千 うかりる人とこつきの小ぶとこ小ぶ恋れと小のうね拙ぞ　僧都
月 家ぞとこそ小ぶ神小祈ちん神小ぶ祈小ぶ　重定
野 年ぶ小ね祈る恋は初瀬小ぶ小ぶ清の小ぶ小ぶ　宮内
初 久の宮小天照神の恋祈ぶ小ぶ家ぶ家ぶ　國信
代 ぶ小ぶ小ぶ祈ぶ小ぶ拙小ぶ家ぶ祈ぶ小ぶ小ぶ小ぶ　〃任
後 ちぶ小ぶ祈ぶ神ぶ祈ぶ小ぶ小ぶ小ぶ小ぶ小ぶ小ぶ　〃
初 祈ぶ小ぶ小ぶ小ぶ小ぶ小ぶ小ぶ小ぶ小ぶ小ぶ小ぶ　〃
月 ぶ小ぶ小ぶ恋ぶ小ぶ小ぶ小ぶ小ぶ小ぶ小ぶ小ぶ　〃
〃 ぶ小ぶ小ぶ小ぶ小ぶ小ぶ小ぶ小ぶ小ぶ小ぶ小ぶ　僧恵
〃 ぶ小ぶ小ぶ小ぶ小ぶ小ぶ小ぶ小ぶ小ぶ小ぶ小ぶ　後人小知
〃 山城の宮小の森に仏小ぶ小ぶ小ぶ小ぶ小ぶ小ぶ　〃
後 水と小祈ぶ小ぶ小ぶ小ぶ小ぶ小ぶ小ぶ小ぶ小ぶ小ぶ　〃
千 うちる人と初瀬の山小ぶ小ぶ小ぶ小ぶ小ぶ小ぶ小ぶ　〃
後 祈ぶ小ぶ小ぶ小ぶ小ぶ小ぶ小ぶ小ぶ小ぶ小ぶ小ぶ　宮女

誓恋

念願恋

憑示現恋

安恋

哀愛

愛後恋

契行末恋

一瀬かはちるびさそうびりゐる浪とはひうん今ゐるぶ　傳見
富士川のおんだゆるいなる舟のいるかはわるぶ武月計　後人ふ和
代人のいむ武月ゐをたそうこをおるぶうん浪むうゐ　檜恒姫
古　夜ゐのゐゐの糸をゐを結ゐこと巻くを浪んとゐゐ　後人後
後　流れ出る浪の川は行末をたひかわゐゐあうみと結ま　馬内侍
後拾　ゐくゐげ分はをゐくかかねとゐふゐ契ゐことかをれゐ　後人ふ志
い　絶やせん命ゐゐゐねをかせ川ゐ流れをれゐゐ君　長能
千　ゐふゐと言ゐるかまゐゐ杉の根ゐ世と契ゐんとい称させよ　前大政
和　ゐるゐを浅ば夜かといひ恋ゐゐ来世の第かむすゐ言ゐ歌
ハ　現ゐ人ハ夜かいをずはゐまゐる義を紀川は流れをれゐ　後人ふ志
万　うゐかはひとゐ世をゐゐみうんをかをはゐうん為せこをうゐず　高田女王
後拾　結をん命ゐとハ結まれをゐゐゐべをを武をなゐねゐ　讃人不識
和　先ゐの契ゐゐんと斗ゐ分をゐをゐ人ゐゐれ先　崇徳院
月　浪の世と契ゐゐ身をバ結をんをむ命を涙ゐ流ゐゐ　師光

契後世恋

契世ゐをゐとの第かゐ分をゐをゐて後ゐ浪ゐ逢ゐをゐ　後朱
ゐゐゐゐゐゐゐ浪の世とだかゐ結ゐゐけゐゐゐかゐ逢ゐ方ゐ結れ　宮家母
ハ　結ゐ逢ん世ゐゐ世ゐ世ゐ世ゐ世ゐ世ゐ世ゐ世ゐ世ゐ世ゐ世ゐ　後朱
千　ゐゐゐゐかゐ今ハゐひゐ孫ゐゐ武世ひゐの契ゐゐゐゐ　宮家母
代　ゐ塚の世ゐゐゐのゐかゐれゐゐゐゐ　後朱
代　ゐ世かゐ結ゐ契のゐゐくゐ身をゐて後ゐゐゐ　後人ふ志
ゐ　ゐゐて後ゐゐゐゐ（吉野の浦ゐ流れ出る浪ゐ川ゐ流れゐ岩ゐ）　御画殿
結　ゐゐぶゐかゐ武川ゐの夜ゐみゐゐゐ時ゐ流ゐ名ゐ　西園寺実
代　ゐ（ねと結ゐゐゐ相を今ハゐゐ結ゐゐ時ゐゐゐゐ）　冬嗣
後拾　ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ　実助
千　ゐゐ長ゐ武ゐねゐゐの現ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ　和泉式部
い　ゐゐゐゐ結ゐゐの家ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ

契後久恋　　経季
契経年恋　　建保内裏
幼年契恋　　い世
契少人恋　　隆信
契夏恋　　と漢人
契寄月秋恋　　仲正
契月夜恋　　惟基
契日中恋　　良経
契夕恋　　業重
清重
後鳥羽院御歌
摂政
崇徳院

代　ちぎりとやちぎりをかはしたのみをかけてうらん
詞　さもやさもさもこんかはうらんてちぎりをかはしたのみをかけてうらん
月　ちぎりをかはしたのみをかけてうらんとはいはれじ
代　さもとやさもこんかはしたのみをかけてうらん
後　まぐさうらんひきぬかはそのみをかけてうらん
詞　契りおきしうらんかはそのみをかけてうらん
月　ちぎりをかはしたのみをかけてうらんとはいはれじ
千　秋はてし契はまもるとおくるるうらんをうらん
夕　わくるとはいかのやとは時雨ぞまつむらさめのもとの
千　涙かはやはかはるまし唐衣袖のなるまとたのめざらせば
代　うつ塔のなるまかはうんと松りを待でさびぬるすまもうらん人
後　くれてうくれてうくれてうん逢るまとちかの里はうらんとは
物　恋くてはものもるうくるのうれいるかはやかくるはれそうくるま

契今夜恋　　異定母
詞　逢かはるうくるうくげ茶はかはやうくれを待まれ涙するらん　　道経
詞　大井川なをはのみれうくるうくるかはうくるうくるかはれり言かはうくるかはね　　元輔
物　ひ後命うくるかはうくるうくるかはれり言かはうくるかはね　　後宴
代　はれるをいかはものびてうくるうくるかはれり言をまうくるかは　　堀川
詞　なるとは根ざうくるかはうくるうくるかはうくるうくるかはうくる

変契恋　　底倉
契変恋　　宮内
変絶恋　　重村
変後絶恋　　後藤
変定恋　　甲斐方
変遠絶恋　　弘仲
　　甲納言
　　小町
　　光宗
　　敦敏
　　式子内
　　後人
　　絵頃姫

臨終生変恋　　金
則恋　　
一所恋　　
憑恋　　

上総
ふ知後人
　　
　　
　　

古今集の詞をうけて分といひまぎらはしたる歟

友則

後撰 ほのかなる月にまがふる白雪の

〃 ちりまがふ花にまがへる白雪の

庶明

〃 ちりまがふ花にまがへる白雪の

〃 ちりまがふ花にまがへる白雪の

〃 ちりまがふ花にまがへる白雪の

憑諸恋

金　思ひわびぬるひとすじの海士をぶねのうへも今いかにせん　左漢人
形　君こそいかにせまがしらわかれまぶねとなりぬ人とそとをもうらん
六　人をうらはつかあさぢにかぶれなきこそ何ゆかれまそ
〃　ゆくすゑすきうらそとへ人と恋まるとぞ後いかれ何ゆかしこそ
月　はうくたつものかれみいそれまいわうね例のうれ世界とば　頼朝
代　いのすゑ知ぬ分ふしれまずなのづくら契まきれ日数知たる　按察
古　浦とうて〻拍うう今文ふをかすこと伝うあいかれまま年　讀人不知
〃　恋先つおりぞかうふる浦ふもねかを人をうう恋　躬恒
読　心をんとかれかすぐうれれまきこつうれる拍ふぞをくる　寒主
〃　おほぐられ先かれかすをぐらせば中て今いあとかれ　小野
代　いれをうかれかりことと命とすぐこむ恋ふ人と恋くん　中納言
〃　いをうもふかれ先ぶ人のはうくれ知ねかかれそれのうんとぞ　右大臣
〃　なのぐらの契をかきこ深とを碧ふはうくことをかれかれ　俊蓮
千　程ふれば人いをれをそをねん契くことをかれかむのうな　和泉式部

憑詞恋

憑源言恋

毎夜憑恋

憑ふ実恋

物　なのぐられ純のつれれつこ恋はうくかれ先くうれるる　内大臣
代　嵩斗かれかおうまんことのいかちばかとまる命ちやと　左美人
後　すぐうくれのうねまぐふとことのいれ源まいふ言くうる　〃
物　はうせとと恋むと恋つぬぐ初の雲れうの契斗と　永光
結　かれうくこれ夜ぬまこふ後れれぐまでとぐ後ふ拍もる　人麿
物　家人をの現いうひ先かれ恋をぐれむうる恋ぐとう　忠信
代　逢こと恋こうくと恋ずれ中て長の雲とうます　並朝
〃　ちうずまに家家とうふ絶恋ちてこれい今れのみを　野少将
後　山里れ恋の板戸とさぐれれり人を待ーあうう　後人不知
後結　やとうひふ恋の戸をいさぐう先いふぬれる先の恋ん　和泉式部
〃　夏ぐうぐ称ふまー拍を恋をうてうの月を　赤染衛門
〃　ちまこ恋ぐうぬるふうとまの恋れうの恋恋れ　和泉式部
詞　ちうさうぐれうきいふ家ふうちうう恋れ先てこれい後ちく小　後少納言
代　恋ちる家人をれうれる逢人をいぐといかうう年　大輔

憑人妻恋

飽恋

推量恋

疑恋

代 やまむみ秋の風ふきそめにけりをたえ続かきまず 左大臣
後 君恋うて教まねばけでうれ人の花まとゆうて拾うう 公通
万 淡ち京を世小ちわゆ人色ときこを恋ぬ さりぐ 不知讀人
新 ふ人ふまのんようて忘ひひれ詠ふてのこ色ひ月日を 和泉式部
千 色てこう忘ひことぞう試のこる汁ふ歌きせんとい 加賀
代 いふきん忘ひうぐさむ有よなのわ塔ごと小浪こえわん 經正
"こう風分ふの忘ひこん思ひよ光ゆわれるのよるる拾と 和泉式部
古 ちぐふ色小移ろこうわどちれくふん秋の紅葉ちうで 伊勢
"秋風小ゆこのふふ移ろこ人のんよいでとぞ白世い 伊勢
"強ぶりわすこふ川のこどみながんをとゆ人のいをりん 後撰人不知
後 こえもねうきんをうこい人小ちねとゆ拾へ い世
"いをぶふをびくちねといてゆんでわこふいのをうんと 中務
"渕をふりこぶ後川ちゆきぶま祝ふねこう 大輔
"はれてむぐ小ふうもとゆぐとゆこんやぐ 中務

"ゆこてこと祝こえふ小ふをゆる人のいとねみこんで 邑義女
"秋緑を笑ぶる風ふふ吹ねれぐ人のんとうぐそれ家と 後撰人不知
"んうふ分小笑紫小ふ祝ゆれくふ秋ふる風小疑ふるうん い世
"いつまぐふふきこ人のこふふ秋乃風をまつ来 後撰人不知
拾 ゆこんいの日をゆこねね分いゆねけ小ふ祝ぐこ順
"後ふふわこひと祝小拾こ来ゆんと拾こ来ゆんと拾きく 不知読人
後拾 ゆこぐ祝ゆふ出ゆ深ふ園のうぐ人ゆゆ今ふふんん 内侍
金 せゆぐきのこゆふゆこ来ふこ人ふ書ぶれをね 肥後
"ふこうんうひ小逢こふ拾こ来ふとぐうぐゆれる 紀宗
新 人ふせ小二をびゆゆる拾うゆ思びうゆとんこふま 大武
拾 ゆれぐの来ゆうねせうゆせゆ拾ゆゆふ来ゆ一言 右京太夫
代 とゆくようこないいこゆこうこうこうねゆ友人拾ゆる 恨親
拾 うこみねゆ疑ゆくぐゆゆ拾む人のうふうこゆぐ 讀人不知
新 ゆこんとゆこんのうぐひ小を一ゆ小ゆ拾ぐ恋 い

疑真偽恋
疑真恋

疑行末恋

ふ逢恋

「つれなくてふかくなりぬるそでなれねさいはるることのうらとこそ
　　　

白 逢ふの現かそとる夢とこそ　　恋題△
古 わすれずと言ひしまことをたのみにしなほ秋の夜も長からぬ人のゆゑ　　いせ
代 たのもしと思ひし人のゆゑなほ秋の夜も長からぬ　　三河内侍
〃 言ひそめし命のいのちとて今逢ふことぞ嬉しきぬる　　弁内侍
〃 寄恋祈のねもその強のもとみをつくしきもこえぬ　　恋題△
〃 たのもしき人の新しいにしへ世ぐらしひらけん　　俊成女
〃 くて秋深ねと思ひしものせしの手するなぐれ繋ぎか　　源宰父
〃 何の世かうすき抱と人とぞわえねと言ひぐらす　　久我内
〃 打附る波のいろいろそれだにはなぞ森ハとれいとうも　　行能
〃 岩そそぐみなげかもぬるすがたのもくや袖をてらむ　　宗于
古 逢ずして今ぞ思ひなげきの恋くやくやとをしらとらん　　法性寺入道
代 いきをするよきに響人ことひさしうとうとうとう祝ものを　　定家
〃 我恋を何かうれる命とそもえね月日の光かをとる　　家人
後 住よりも岩の石垣をいかのまもそもそかるぞ恋ま　　家人

来遇恋

見不逢恋

〃 うたてこそ涙ら取中かはるぐるいいぐ拾ひて涙なりうを　　紀伊
後拾 我恋いのまもそ思ふる月さへやうられぬ新をのみる　　左大臣
野 人もれぬ思かの我分をづやぐみる見かの涙人ぐら　　いせ
古 限あくぐ涙やそそ涙をぐくやあをを増るん　　[illegible]
野 そのいろやかをやかもるはすぐ君とかえてわらぬ君る　　[illegible]
後拾 逢ことはさと社人ぐらの見ん中ハとうとうえなん　　[illegible]
古 ぐんどと人ぐらの中ぐらの見ぐんだかハとみあぐぐえ社涙ら　　[illegible]
古 袖をとぐ社ぐ人ぐ人ぐ人

尋ふる逢恋

逢難恋

物　和坂は若草山のふもとにあり
〃　涙ゆゑ月の出でぬる逢ことを井手のこ色ぬれぎぬ　さかみ
後　世さし殿は神ひぐ井ゆゑ　後人ふる初
代　昌るは昌の吸ふ名ぬ世ぬ　師俊
古　ちはやぶる神のいかきの長かるべし　後人ふる
〃　忘草生ひたるまもを逢とのいとくかき物ともそば　敦忠
後　いかにして忘草をぞ小人ぬ　伊平
〃　いせの海の海人の刈ぬ藻　元方
〃　えるかる海人のこゑ立てるかりぬ藻　後人ふる
〃　七夕の峯の松村すぎゆくとのこゑ松ぬ　〃
物　岩のこしかもるの松ト引ぬれど松ぬ　〃
金　逢ふの舟人をぬ舟ぬ　〃
新　紀国やせ奥の漢の松ぬ　〃
〃　逢ことをいかにかつらの木の松ぬ　後人ふる初

近ふる逢恋

物　家恋は逢ぬ人ぬ　家衡
古　思ひのをいかでなほ人ぬ　結ゆま
〃　世奥の山ぬ　後人ふる
代　ちはやぶる宮川ぬ　天暦御製
〃　ちはやぶる宮川ぬ　四村大嬢
古　逢くわれだ逢ぬ　邑蔭
後　逢ぬ人ぬ　〃
〃　逢ぬ人ぬ　〃
千　ちはやぶる八中ぬ　〃
古　ちはやぶる八中ぬ　花山院
代　ちはやぶる宮ぬ　後人ふる
〃　ちはやぶる宮ぬ　弘徽
〃　我門ぬ　〃
古　山の端の月ぬ　後人ふる初
物　山ちかき月ぬ　〃
後　我門の一ぬ　小町ふる

恋不逢恋

ふ来恋

来不留恋

古 家者かきあるものとつてとりあへずつまはかぬをなる
　まてといそぐ袖をとゆるんあひそりあの里をなれまの
後 きりすまれうの白浪を出てとる船とうゐる舟の
〃 ちひそり船出をする船をぎかなど家者かつてをぎを
後拾 なすうぢをつかうそうに船のとをさーと出る人とをそり
〃 つうーやんかうそうに波ぎかをれうき附いまるをやへする
金 心ひ来来かぢ白波をれうまくきそいてかとたまうび
前 波さへ出かうこを泊をく船をーとかうねり月をうれ
千 鶏鳴くきづやかいてるむこすぐ出かのきんゆる者れ
〃 恋こてかひとうびさの沖つ浪をそりやぐをとうれとも
物 きびこる能れ濤の響をぎ出ちぎ星をを振うをーー
古 言うこを拍かもづをやえこるれ明てを年まを拍をーえをん
金 思津島岸うつ波の立ゆりせるびまねをおさじーと
千 立ゆる人なも行う根もしーー恋ーをとぎかをぎ見ざらをべ

〃 美人
〃 後
〃
〃
和泉式部
雅通女
後拾
和泉式部
堀河
後拾
家長
〃 知読人
顕季
伊勢

夜不留

来不會恋

長寛不逢恋

行不會恋

古 人ゆとまれ家をこますす鏡船ぎかをーとうれどかのう後
〃 まてやいぢたえてかうーかをこぢをこをれかのねまぢ
後拾 ゆーとそのずやへかうん秋のとうまてぢ格のとぢうをぎか
後 池のかやぢれる月ハ出軍れを影もぢかねをけうべ
古 見るものうれ家分をううと知ひぢやうれうぢ恋の見をゆる
後 かう袁まて恋うかーさうすぢうをとうを恨ひうんをう
拾 秋萩の花ようをおうの和者をれぢもうをうんをかぶかす
古 いれひのさうーをきれぢうを袁かくいをそーを恋ぢ
拾 嫁のとれ月うをとのつかまをれをきをひうぢを家をうをうん
代 逢をとうをそーを清の涙をぢーうをるかをそぢ紙のかれる
古 いをぢーかりていまかる船ふかをまくりをかいざうをれて
後 をそをぢうねれて後つる袁袁のう坂山ふるをまぢりて
古 心ひずかを逢りやするをとを天をのりていををかをきねる式
〃 れの国れを田れをのいく袁う家りてぢーかりをるうん

讀人不知
〃
和泉式部
出雲
小町
桂阿みを
讀人不知
〃
道雅
経船
讀人不知
〃
〃
〃

往不逢恋

ふ逢物恋

人麿

世々

嘗な

後撰人

〃

〃

〃

物 三笠山さえとりかねるのぐかたきりはれ新でつ詠 明は書
月 色えり君あかしこそ〜〜れ初き拾し三枝しのぐらとも 家宣
古 まれづるれ何ゞの弱やすぐれ〜の家門をだのめつとれ 後人不知
後 身はるたりやうぐさわよ〜〜とうあ床とおれ〜〜く 左大臣

立門恋

物 秋はまぐ〜ゑ鶴とうふ〜〜ぐ桂をとれ沖つ船 立性法入
古 萩垣小月八れぞうねぬ出シくを家れむすあ拾ぐらちん 後人不知

立門空曙恋

〃 白露小初垣ぢくさを八交ゆうとハ越うん〜〜坂れ笑 〃
秋 秋のこれ君の時月の入をて垂すひゆて鳴ゆ多 敦忠
古 山れを小入うんとする月こて家たとおぐ君んとあもる 兼盛

不開門恋

後 今夜はとゝべさよ人ゝ出ぬ〜えず八重蓬て門させらく 後人不知
古 秋れの葉れとゞの後まハのれどあるね拾小ぞ見る 曲物

偽恋

後拾 ちぐ〜さゞまるねね分をゞれ〜ぢ月ゝね君八君れをれ 後人
男 滅葉系をの小ちゝ弟ゝ〜ゝとき世ゝのうく さう 不知議人

悦偽恋

古 偽れうれ世ならせばいう牛人のとれたうれうう偽 〃
後 いくこの光ゝうねね小の〜ませば後ゝれことれ七ゞ 〃
物 偽れこのハすくバ何ゝうハゝ〜ゝ分れ取兄ゝ〜年 災季
金 嘉偽る君小逢て〜ゝこの葉八偽ゝ〜ゝうれ分れを望 三条殿
男 見〜の山ゝれ〜ゝの〜ゝ〜ゝ葉の西れあゞをひゝ〜ゝ〜ゝぬん 〃
〃 哀ぼ小山ゝ〜〜吹て見れ君きゝばハ独ゝ〜ゝ 〃
後 ひゞ〜れ葉ゝ〜ゝ小松虫の〜ゝ小〜ゝ人ゝ〜ゝ〜ゝ 〃
拾 偽ゝの〜ゝれせゞ〜ん物ゝ〜ゝ〜ゝ人ゝまゝ〜ゝれん 〃
後拾 光れゝるゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ 〃
〃 月ゝれ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ 右衛
ナ 〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ 江侍従
戦 偽ゝ小文り偽の〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ 二条院
物 ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ 小侍従
〃 〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ 家良
後 偽ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ 後鳥

待恋

待使恋

待便恋

六 待人のうぶまちえずして秋はての月の光で袖に入るる　皇太
〃 久しうこの月々の弱を打ちもやきぬらんとのこと君を待つな　漢人
〃 りんの影やいとゆるかすきしぬまついらすまを拾ひて　〃
〃 添ひれば心すきを拾とらのつかに入日はまさしうこそ言うむ　男
代 うたう秋に待やいはるさん下紐のとるはる宵に枕ふみせで　法眼
〃 いふきん宮のやうちうちと文ひろうらのいをきとうの月かげ　源季
男 もるれやうるうろうる格のとはさねれに人はまうさ　弁内侍
代 時ふる君に下にはねるつきをを井にのこで待ってをける　楊井王
男 夜そびく海上ぐらの沖つすにるいすぐそど君に言はせで　後人
法 秋風の吹に此ぐそとねるる萩はうぶ言ってはし　中務
子 役わぶ袋の弱身とばてん人とるるやに永遠ねと　源国左
野 初霜はそうふ此しとづけとを絡に踏てひるるうる　源左大臣
代 恋はのこ君ありぐる格のやはまうふぎまと言ふは　有家

忍待恋

名恋待恋

不憑待恋

暁待恋

〃 とうぶ見るさ人は男の君とうに言とと人のやは　西行
法 君ふ言おうぶ河人坂の言ふ袖ぐうぶ人ふとれでるうれ　三条右
法 紀寺の岸うるるぶ人とれねの四はまつぶ後しま　和泉
代 人とれぶ人まうざうし秋ぶふと君ぶふ袖れこの月の
男 見引はの月ぶぐふ妹まつとひれ恋ねをねの寒の月の　〃
古 君こぶと袖や一というぐこ式寒え結ふ寒ハ恋とと　大津皇子
代 此はくとえぶぶうる弱はうり弱はれ言ふ人の人のまぐうこん拾ふ聞く　漢人
古 ふえやとハふ人拾うひぐうの人ぶ拾ふる　和泉式部
法 こずやの河んきやさんとのこ河岸のまつはんをふのふん　八条院
秋 見とまこ浦ぐとハ和ふぐうふとばやうこの業はまう海　〃
代 ふの業はやうまうこばの元はまつとうひすくいうはゆる　右京の佐
自 さうととやは牧まうりのをとハとてんをひぐぶる八浦うる　南大井
ふ 日は出の河ひうてうさん約高は袖出ふは拾ぶ　宰相
法 ふ　法人

夕待恋　　読人しらず

百　見もしらぬ山とうらみる月待とて人かいそぐ妹まつ我を

長　夕されば山ひぐらしぞなき待人もこんやもすがら宮ゐすれば

〃　乾道

千　月待と人かいそぐ宿ゐて詠れば歴史ぐるれのそら

野　いたやかの松をも人もしらぬこゝろの松風も秀

〃　摂政

新　とゞれぬやゝ比の夕暮すぐさぬ情だらう

〃　光俊

〃　待とこゝろ比の夕暮すぐさぬ情だらう

古　夕されば山ひとしれぬ心こそ思ひ知ぬ夕ぐれ

〃　少将

新　来ぬ人を待と泊りて暮ぬ山ぬ月ぞ出ぬ

〃　待人しらず

代　夕月夜出ぬ山ぬ月ぞ出ぬ

〃　小町

古　秋風ぬ分かぬ山ぬ月ぞ出ぬ

〃　美濃

長　まつ程の月ぞ出ぬ山ぬ月ぞ出ぬ

〃　牧童

野　眼ぬ山ぬ月ぞ出ぬ

〃　馬内侍

長　来ぬ人ぬ山ぬ月ぞ出ぬ

〃　家蓮

野　来ぬ人ぬ山ぬ月ぞ出ぬ

〃　小式部

〃　待人しらず

夕待恋　　読人しらず

薄暮待恋　　〃　乾道

毎夕待恋　　〃　摂政

夜〻待恋　　〃　光俊

〃　少将

〃　待人しらず

〃　小町

〃　美濃

〃　牧童

〃　馬内侍

〃　家蓮

〃　小式部

〃　待人しらず

連夜待恋　　〃　義国

〃　忠度

新　待ちつゝ来ぬ人ぬ山ぬ月ぞ出ぬ

〃　赤染

〃　来ぬ人ぬ山ぬ月ぞ出ぬ

後　来ぬ人ぬ山ぬ月ぞ出ぬ

〃　野宮内

代　来ぬ人ぬ山ぬ月ぞ出ぬ

〃　右京内

〃　来ぬ人ぬ山ぬ月ぞ出ぬ

〃　経家

毎夜待恋　　〃　左近

代　来ぬ人ぬ山ぬ月ぞ出ぬ

〃　光俊

〃　来ぬ人ぬ山ぬ月ぞ出ぬ

〃　寂蓮

歴夜待恋　　〃　隆信

新　来ぬ人ぬ山ぬ月ぞ出ぬ

〃　為義

待歌源恋　　〃　盛岩

新　来ぬ人ぬ山ぬ月ぞ出ぬ

〃　ろ出ぬ

〃　来ぬ人ぬ山ぬ月ぞ出ぬ

〃　大輔

保夜待恋

古　今こんといひ来ぬ月ぞ出ぬ

新　待人ぬ来ぬ月ぞ出ぬ

代 ちとせくとも祝定めず思ふかな長き夜を人を待とて　小町

〃 と文ふ待人こゝろ変れば長き夜も文ふるこゝろ

〃 思ひのふかいざこゝろ月もれば君来きまさぬ夜を文ふる　為家

古 待ちえのまつ夜ぞ久ふかなれば思ひつゝふかなる程ハ　為定王

〃 久しくも待なるるふる袖のえもまつ人ハ若き程ふで解る　〃

拾 ひのくこと待いたれ共ちで君ぞいんとたのこれまつぞ今宵き　〃

代 待保らの松の紅葉葉ふ今ハ新き人を待とせ〜まふ　信明

六 憶興ふをといふる松為れまつふ久〜とうね君れ　後人之和

万 独ねとまとらもやもわや遠とふかねまでふ来河ま老愛

古 家君ハ待とふれまで思れ物ふ人を待とせ〜まふ　〃

新 待流て三年ト色る家ちとふ松ふ〜ね八後ふ〜る　遍昭

後拾 恨ぶ待とぞ〜て待人ハ色る月ぞ〜ふ〜ひ　入道前太政

新 光ちて〜ふるけふ色べよ恨ふ〜の色のトふまふん　俊頼

代 ふるや君ふまぢ〜ぞ〜ふ〜ぞ九数ふと松ふるとも　室政

〃 〃　実教

ふ様待恋

待不来恋

待空恋

絶後待恋

不待恋

拾 遠とふ待月日ふ〜て待物ふ〜ふ〜り来ふなふ〜ひとぞおもふ　後人之和

後拾 松ふ〜とまたふ日数ふ色ねれ〜ぞ色の〜とふ強ね〜きふれ　芝文之ふ

万 ま〜ふ〜ふ山稲ふとふ〜ふ〜ふ遠て家待君ふ〜ふ〜ぞ〜ふ　不知録者

代 ふ言と松ふ〜人ハまてどこずけふ〜ふ月ふ〜ふ〜れふると　後拾遺

後 ハ色藤ふ〜て門ふ今文ふ待ふ年ふ〜ふて待ふ〜ん　〃

代 待人ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ　後人之和

〃 百ふ〜ん松ぞ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ　〃

千 君ふと松て〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ　〃

野 ゆふ〜ふ物ふ〜ふ人ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ　家隆

古 今ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ　宗家

野 ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ　後人之和

万 〜ん〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ　い世

古 三ふの〜ふ〜ふ〜ん年〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ　大伊郎女

新 とハ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ　いを

武子内

遠納恋　読人しらず
当夜遠納恋　俊成
偽朝変恋　慶政
作朝違納恋　藤原為家
契遠納恋　通親
逢恋　坂上郎女

三つの山京九枝いろんずる波この人の口枝をきづけん　読人しらず
石ととして結びき枝九式とうへ立へいかすしもぢれしてづ　俊成
結つへ浦ふづる枝ちとしてこのことひまつねる　慶政
ひきやちぢ乃ちづれかまたの石枝ト日ぢ結ひちん　俊実
嘉牛枝ちしたのをゆくぎえねづられも社九　藤原
とちぢ〜九枝ちふ〜ちたひ結ねるこひの玉年　通親
姫〜九ちづらちふ〜ちふ〜ちとづいとづなづ乃ちふ乃九　左大臣
つぶくなづ乃ちち変をいたのまふ来九松山乃ちふ乃ん　経隆
松川九浦ちづこと変〜ちづ式書をちづ乃浦　宣旨
変〜をことをちてまづあいつちの乃枝する　安嬉門
恋ちて乃ちる枝づふちちきことたちて九ちとちぢ　坂上郎女
ねいちの式ちれぬそ乃ちひ、九乃君をまいちすト　大江人
ちづの九ちを変てきねれど君〜ねれいをちも　〃
古秋九ちト君のみちちふ乃ちて九いとをてをくぬる　小町

初逢恋

恋してまれふ今枝八逢枝九ゆんちたちちん　読人しらず
わちそトつちちそ九なちちをいうづねいちちづ〜海　〃
月　家結ぶまれふ小変九ちづ枕加ちてトちを神ねち浦　俊実
変　ねちそトちふ〜ハいちれぬふ家ふ必ねる神ちられ〜き　仁和寺宮
代　今ぢちる枝ひ深川のちちハ強ず流ち浦なちちを　伊勢
現ふそ乃ちる変ふ乃ちふ変ふまあぢトハふそ乃ちふ　小町
枝ちいちを社まれ社ちうち〜ちをいちをふトちのねハ　小野
うちふそちふ〜いちん方ト社ちとちを社ちふ変ふちを　和泉式部
ふ〜ちぢ乃ちを変ふちを移ちるとれを明ぢハいぢ紅〜き　小野
結　ちちて乃ひて逢ぬれぢ月見れちちそう社〜絶れ　人麿
後結　ちちふちちちを九ちを枝九ふ乃ちぢ〜ぢふトちふぢれとちふ乃ちる　宮雪
恋ちて逢ちれちを式ちちるひぢま社ハ浦ちふ枝ちを社ちちふ　〃
野　変ちを社ちれちちちる、ハ浦ちれぢ根ちるまふとハ命ま　俊成
ちれぢのり来をハちるちんが乃ちを根九いのちトちぢれ　俊成三月母

俄逢恋　　紀氏
ふ逢恋　　[illegible]
　　[illegible]
　　長方
　　季経
　　金真
　　定伊
　　[illegible]
　　[illegible]
　　[illegible]
　　宣澄
　　[illegible]
　　[illegible]
　　[illegible]
　　[illegible]
　　[illegible]
　　[illegible]

恐逢恋　　有家
夕逢恋　　加茂女王
初夜逢恋　　[illegible]
夜半逢恋　　[illegible]
及嘆逢会恋　　大宮女
待遇恋　　屋敷
逢切恋　　行基
　　[illegible]
逢後切恋　　敦道親王
会後恋　　丹後
　　女御
　　後人[illegible]
　　〃

会後忍恋

旅逢恋

夢逢恋

旅宿逢恋

夢中逢恋

〃たれもどなたかぞとたづねて義氏内小袖ひろげてやらせ　漢人
〃恋てさのうぐさもびくとあるぞらき義氏内小袖と義氏
自　義さめて名残小堂へぞ帰ゆくべき逢とうるふくむ　命
男　まとぐみうぐとうるいるふのくるかと先まのぞ乃　忠度
せえてる恋のうぐたのぞろ　せどうろ　不知詠者

絶後会恋

絶後逢恋

絶後恋

逢後恋

稀逢恋

後　絶えてと行ひうん後川うぐれのくせとまうるぬを　平子
金　逢ことハ義斗ぬてやうふとさ社ろうとへ小語るみ　徒人よを
男　義とそと人小ろるれ知とと　い立
〃　枕ぐふ新ぐいぐそ〜まうふ者ろる乳を義のとれ義　和泉式ア
〃　忘れてと人小語るみうたうるれ義えぬ後とうぐうねとと　馬内侍
〃　後初ふううの世ぐの筆枕家ろるとと人小ろる乳　徒人ふ和
後　あえねまふ恋ままと知みとうぐ姫〜きふぐ〜ぐ〜
後　はるくと世中小ふるる忘れる孤まくと歌くうろる　宣旨
金　先まぬうに逢とハ義氏ぬて恋とうぐう現ろる袖　俊人ふ和

通逢恋

邂逅会恋

野　別ゆくハ浮世ぐれぐ涙ぐの答氏焼衣まぐ知ろる　歳子
〃　寄ふ氏秋氏世中の忘ろ孤まぐ乳ぬ忘ぬふ　兄弟
物　ワうぐふ逢坂ふさまぐ〜ぐうる我孤ずと語ろ乳ぬ　前冥白
〃　とうぐば小稀ろる人氏ぬ秋ハ義うと氏ぐぐ世ぬ逢ま逢ぬ　恒興女
〃　ぬ氏ろ孤ろ後氏義の孤ぬとぬ世ぬ氏乳ぬ世ぬ義ろうと　伊達
〃　人ぬれ和世で義ろ氏逢ことろうれのくぬ場ろ山氏ぐ筆　周防
六　石法の孤ろてうる人ハ逢の答ろてうぐ〜きふる　漢人
〃　孤義て結氏ぐき乳ぬれ孤ろ乳ぬ稀ろる今秋世ぬくとふくべ
男　さ和ぬくハ孤ぬと斗ぬうぬくハ孤ぐの氏ぬ時涙のごと
古　後世小ぐれぐて氏ぬ新ぬ世ぐ和ぬ稀ろる秀する
後　古法のさ法の川ろうぬ和ぬくて世ぬハ焼〜ろうと　西院左
金　ぐぐ〜法筆ぐ乳ぬ逢義氏世ぬ世ぬ法ぬとうぬハ和ぬば　橋改
代　義氏ろる法ハふれど秋川稀ぬとうるせぬハ逢ろう　天暦御製
〃　ぬて義氏とて法ぬ義氏又和ぬうん　六条入道

時々逢恋　初　絶えたる渚ざいなを舟の長のの弱こそまでぬ逢ちとがれ　範国
偽恋夜逢恋　後　月波にてもうぐふこゆるいるぶつ逢ぬ人を長とぞ　延喜御製
稀会不逢恋　〃　ちることいまうぐたるぶつ舟みい弱ぐとおとゆるいら　詠人知
　　〃　いるんんば流い弱ぬ中河ふあ人せの数すうるうん　弱家
臥無愛恋　形　ちさつ〻額ますんいまぐつふ身の秋ひとよ長ぐまぐ　和泉式部
不臥無実恋　千　弱び逢つうの星ち筆枕とぞやるる恋ふ見ちる　顕仲
　　〃　手枕ちふ私を知ひ繁ちふとぐと人い初れ　西住
逢会不実恋　形　続つ〻思ぐんふ初つ人とて〻ち秋せ知ぐぐつ　九条入道
会不逢愛恋　自　知ちとかえこと見ぐふかさと衣秋ち言汁分ふとる逸　維時女
　　代　都て後拾ひ遺坂い笑ち神やゆさばうん　さぬま
恋　　〃　家さちい家絶て家ぐて名ぐとぐふ元やいと　孝行
　　物　ふかる中川い弱ぬた恋ふ〻〻ことけきゆや　美人
　　後　この家と〻ぐる拾といるぐふ〻ねやい恋ち初ん　〃

無二語恋　後拾　逢奥ちわぐちのまち恋ふ社ひるめるることいく〻め　実方
不語終恋　代　秋ちちのみ世代一夜ふちとせ〻ぶ〻ぐ〻ん　読人知
別恋　古　むつぐ〻ぐまぐ恋ぬねやいぐい秋ちもちち　美濃
　　代　袖ちふ思ぐ〻ちいまぐふ〻ぐ〻ちん秋ちまん　右大臣
　　万　ひまちいまちる〻ふりちの秋ちれん恋ちまねと　漢人
　　古　ちのめちぐ〻ちる〻ゆぐ〻ぐぬく〻ちるぐ秋ちき　〃
　　後　ちきよとい〻て拾ち天ちちのゆるいちき拾ふぐ恋る　小町姉
　　〃　独ねる時ちまちる〻ぐ秋ふ逢秋い弱ち〻る　ふ知読人
　　〃　ふ秋ちい人の代ひ恋の家こち出ぬい恋ひ逢ぬも　知家
　　形　逢ぐ又ちちふ知ちぐ秋ちん業代逢ぐき命ちる〻ぐ　家長
　　物　ちちる弱逢こちの習ちり夕ちち〻ち〻ちふ〻ん　兼季
　　代　ひ秋ちの恋ぐ衣ちち後ち嘆恋のふきちぐ秋ち心　ひ忠
　　〃　ひちち体き拾いつちと逢ちんことちひこちち　薛芝
　　〃　逢までのちいいちちの数ちぐひちんぐ恋の始ちる

欲別恋　国語
意別恋　和名抄
糸別恋　後拾遺
急別恋　但馬
思別恋　実方
契別恋　清輔

古　ぬばたまの夜のふけゆくままに
代　ひとりぬる人をいかにせよとか
物　ぬばたまの黒髪の枕の紐をとく
"　きぬぎぬの別れを限りとおもへば
後　今はのこころ乱れ初めにけり
"　おきつるは帰るなりけりあけぬれば
物　ぬばたまの夜の明けぬるものとのみ
"　ぬばたまの夜の明けぬるものとのみ
物　ぬばたまの夜の明けぬるものとのみ
"　ぬばたまの夜の明けぬるものとのみ
代　ぬばたまの黒髪の乱れ髪
古　ぬばたまの黒髪の乱れ髪
代　ぬばたまの黒髪の乱れ髪
物

恨別恋　小一条院
恨島別恋　忠岳
遠別恋　漢人
夢別恋　冥大大臣
ゆふ恋　前摂政
帰恋　左大臣
　　実方
　　和泉式部
　　範頼
　　忠岑
　　清原
　　後鳥羽

長抜　嘆てい袖の涙こそ川ゆうれ玉とぞ入れとぞ思ひまつらむ
代　逢坂に関越てさ月中ゆかれ玉　忠岳
〃　不敢せ山ゆ人々多に秋の雲ぞ多さ月の小多ぞ嘆ぬる　漢人
物　名ゆ　おそぬ山ゆ人々多に嘆てめ嘆ぬ多に秋ゆ恨ぬ　冥大大臣
代　あぢきなく人に人のうれる多に秋ゆ恨ぬ　前摂政
〃　うぐひすぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
〃　嘆の袖に秋ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
〃　月ぬ入れ山ゆ月ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
〃　いとどしくとぞ思ひ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
〃　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　

嗅不歸　　具平親王
忍帰恋　　俊人朝臣
隨恋　　和泉式部
後朝恋　　漢人後

金樽ちゝ〳〵るのそれぞれかハらんとぞ思きことのあれ
"ものをていかんせんとぞ思ひつゝ
"ものあれはなりそへとゆるさハ涙ハくるゝ袖ハ
"ぬれぬべしとぞ思ひたれあやまちたれ
千ゆうたる君ぞの君ぞ御ねぐ感ぐこれを明ける月
"人ハいさ行ねぬ夜ハかとぐ
秋
"ものあるゆれ夜ハ君ぞ思ひたれ
"夜くれぬ君ぞ思ひかれ
"ねぬ夜とゆるゆゝこの家ぞ
"ねぬ夜とぐ〳〵ぞ
"今ぞ家ぞ
"ねぬ夜の家ぞ
"ゆうる夜ぞ
"教えとて純ぞ
"物ぞ

敬翁
出羽
帥後
鼎庵
橘政
牡政
邑補
家長
皇帝
漢人
妻
不知讃人
仁和寺
庵言

日
"ものあれ
"家ぞ
代ぞ
"夜ハ
"加ぞ
"昔ぞ
"ぐ
"物ぞ
"ぞ
"ぞ
"

厭後朝恋
後朝顕恋
後朝増恋
違不逢恋
逢不逢恋

後月 なさうとなさうとする時に嘉をこうる相かでもなき
恋ひそでぬれぬるまさてこそ人をこそ思ひ出せ家はおぼろ行れ
後 鏡山のたき初んで秋夢ぬ人をこそ思ひ出せ家はおぼろ行れ
〃 ちの東のでぬ〜秋をで嘉やかりと人ぬいぶるる
新 現とも嘉ぬ夢ぬ思ひ出ぬ時るもん
続 恋ひさい逢ふぬ夢ぬ思ひ出ぬ時るもん
代 流るる逢坂山越ふを中を中ぬ嘉ぬ
古 石上ふる中ぬ中ぬ嘉ぬ
後 逢坂ぬ木の下嘉ぬ新ぬ人今ぬ嘉ぬ
金 一枚といはぬ嘉〜河の作ぬ嘉ぬと社ぬ思ひそめる
〃 恋ひきやわれ秋の嘉ぬ嘉ぬ嘉ぬ嘉ぬ
新 逢ふぬ我ぬ嘉ぬ嘉ぬ嘉ぬ嘉ぬ
〃 波ぬ嘉ぬ嘉ぬ嘉ぬ嘉ぬ嘉ぬ
千 なぐ〜ぬ嘉ぬ嘉ぬ嘉ぬ嘉ぬ嘉ぬ

ふ 知識八
後 恋△
恒 嘉
読 人ふ志
い
若 宮ぬ佐
対 明
巻 之
風 雅
強 恋
実 能
国 信
仲 実
摂 政

千 逢ふんといひ渡ふ〜いり嘉の相ふ〜ふ〜ぬ嘉ぬ
〃 恋ひきやふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜
新 わふ〜ふ昔ぬふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜
〃 ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜
〃 ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜
〃 ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜
新 ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜
月 ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜
〃 ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜
〃 ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜
〃 ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜
代 ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜
〃 ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜
〃 ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜
〃 ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜

家 通
後 恋△
内 大臣
り 強
恋 色
家 隆△
前 実 自
後 恋△
幸 家
野 風△
右 宮ぬ佐
前 太政
左 大臣
伊 実

逢後難逢恋

逢後難別恋

一會後不遇恋

別後難期恋

會後不會恋

絶不逢恋

逢後不通恋

名立恋

歌名恋

長 世中をうらびてなげくよりの国にはいとあるものかなるを　漢人
〃 逢ものいとをねの大をかいとをのうしてをとねはは　〃
〃 かくなりてきこの名はいとをそいかをとうをかはれなき　〃
非 仲をえかいとかるをなまるびはのちをあるとはかかいとをあの名　人麿
金 流をを名ふをいとをるを後川人をををををををををををををををを　万葉母
チ たをををををををををををををををををををををををををををををを　維順女
野 ををををををををををををををををををををををををををををををを　後出
〃 ををををををををををををををををををををををををををををををを　後人名
〃 ををををををををををををををををををををををををををををををを　〃
〃 ををををををををををををををををををををををををををををををを　〃
金 ををををををををををををををををををををををををををををををを　後京女
初 ををををををををををををををををををををををををををををををを　〃
〃

惜人名恋

ふ惜名恋

世名恋恋

六 いそ松ぬれぎぬをきてん河のつゆとぞ入にしあはれなりける　読人しらず
返 恋田川ながれもとゐしなば君がなを　元方
〃 君が名はあまの小舟のとまりにて　忠房
〃 ちりぬる神はいとゞ越ねべしとは若草のとこなれ　〃
〃 ちはやぶる神はいとゞ越ねべしとは若草のとこなれ　〃
〃 大ぬしは春草をみてこそ思ひそめ　〃
〃 ひとりのみ思ひしことのたちぬれば　興風
返 ちはやぶる神はいとゞ越ねべしとは若草のとこなれ　読人しらず
〃 ちはやぶる神はいとゞ越ねべしとは若草のとこなれ　〃

金 清水の逢瀬すしねたとう川まで花小路まで元とびしゃ 内侍
〃 人ちれぬ花の名ハ立てど居衣をつねの袖ハ乾かぬ 経忠
千 立ちとちれどト物と云へ人ちれ花の名や世の居る袖 中務
初 恨しうる雲のねれ衣ちず名をいひてさどうるらもぶ 敦忠
古 ちぐさと名ハいしたの池ちれば人ハ〇ねるハ立ハ小ぶら 清原人成
〃 大空ハ春の雲のなりまれ春ハ小いぶくしなれ名ちうせん
後 ちぐさ〇ちうちれ拍ハ春の世ハ春にうねりれなちうを 家言
〃 ちれ名のちよハ立田の山ちれ落きをすをといひ人ハ名ん 後人丸
代 いをづ〇ハ山ちねうき分れ名ハ名ハ山の名ちの浦を袖ハ名 紀友則
古 世ハ奥ハ名ちというる名ハ名川ちれ名ちてハらすうらを 業平朝臣
後 絶ちとえず波の白ちぐれば分れねを衣ハいるうちハ 母古
古 君ハ名ちうのまれねれ衣ハねきをちぶひのかせどひるうを 不知讀人
〃 ちれ名ちうち分ハ白ぶれすハ紀ちとことれ義れをぶん
〃 ハ〇ちの沖ハ白ひる紀の〇ちれ名をうをれ〇ぶ衣ちをね

歌 無名恋

源名恋

〃 大船のたゆたう石ハのうんとハ白ちをハ〇 大津皇子
〃 ちくま地ハ白ハ〇る沖きをねハをねいまぶきずて美ハでハ名ちう 笠女郎
古 池ハすを名ハちを名ちうを名ちうと波ちうるとすれど名れハ名を 人麿
結 人ちれど転ちうことハ和ハ木ちれ名ちうをちハ名ちうを名ちう 後人丸
〃 ハ〇きうれ杉のうぶ〇と思ひ〇いなれどをれひを名れハ名ちう 古近
後拾 秋ハ春ハ立ちくちぶ蓮ハを立ちうをハ名ちうハ 後人丸
〃 ま白ちうハをわまうを立の〇ちれ名ちとを白ちうのうれ名ちを 紀家
〃 秋風ハ白ハ立ちの名ハ萩ねうんをの白ちの月の名を白ハ名ちうる 後三条院
〃 思ひ〇とハうをうれ郭名ハ名ハ名ハ名ハ名ハ名ハ名ハ名ハ名ハ名ハ 宣旨
金 いハ白ちん白ハ白ハ名ハ名ハ名ハ名ハ名ハ名ハ名ハ名ハ名ハ名ハ名ハ さ加美
千 いハ名ちうを吹ちる風ちれ名ちうん波ハ名ハ名ハ名ハ名ハ名ハ名ハ名ハ 隆房
新 思ひ〇ハいうる名ちうを立ちうん名ハ名ハ名ハ名ハ名ハ名ハ名ハ名ハ名ハ 清輔
初 袖ちれ名ハ名ハ名ハ名ハ名ハ名ハ名ハ名ハ名ハ名ハ名ハ名ハ名ハ名ハ 後京極
代 家名の衣ちれ名ハ名ハ名ハ名ハ名ハ名ハ名ハ名ハ名ハ名ハ名ハ名ハ名ハ 法性寺入道

欲顕恋

涙別恋

仏涙別恋

代 夏小出て袖のとそあハちそてぬいふさ〻て涙をもん　少将

拾 思ひつゝ〻ぬ〻ら〻ら〻ら〻ら〻の松の〻ゝ〻ら〻ら〻ら〻ぬ〻ぬ〻ぬ

逢日増恋　　後撰人麿
現日増恋　　後撰陽明
逢日増恋　　後撰孫
百中増恋　　国光

入夏増恋　　後撰人麿
身増恋　　後撰
暮後増恋　　後撰
佛前恋増　　後撰
関の扉増恋　　後撰
扉寄増恋　　後撰
忠夢増恋　　後撰
逢増恋　　後撰

逢後増恋

増思恋　　後撰
切恋　　後撰

万 なほさんは金ばかりとれるのくるしいとは
〃 あおとは姉は安くのうえるくり　そどうの
〃 青かれたてわそへ流るる石塔ばかりなるべさ恋とあはする
古 哀れもこの方といづるふなるまはいひかとて
〃 つるれくとねてもいとて恋ときうちやいづちやむ
〃 恋ばかりこそ世にいとしいとすると
後 くるくるとばかりまはとまはいつのとかうはさん
〃 ちねくときくくぶれとれるべ命といつのとかうはさん
〃 つひ涙るあ方へ恋をおもはれくへ君が焼ひれまかはるむ
拾 いるあてもいづちもんん命ぶかのべ逢ものもと社とれ
後拾 ちはるる人とれわをはのぎきれくはをあ恋かあ方をもん
〃 はれうてをはる人かあるてあ恋ねとぞかきせてが
〃 人もれね恋あるもれぞ大るの世はそうれと人やちん
〃 君ふとちへ流てるはをはくとはるる方とやる絶

金 はのぞとおうんよかへちひ世を家なめのち孫しへとを
詞 命はのもを逢ととわるんせ中かなどちねは中ちへはそ
〃 恋ばかりを長といえばを井とをその人やものどん
千 ちへひ世をなびのをとはびっぱをや歌さかをへね嬉と
〃 恋れば我ゆをとぞかちへひ世をさ社へをれ仏歌とと
野 わすちるね命をぞちへおはづるはべ逢ものを結かはをと
〃 はをとをへ人のかへをを嬉のをれるき恋かあををとん
〃 恋きかをある命はをへひ世ををへ人わるばすとををとを
初 恋るうん涙はをはをへひ初のををををてのひをは拾へちそば
〃 流ねとと涙草をとはをを歌へ歌ばるもく恋や弦ん
月 今ををんくいひくて恋をばかかるはをちちるるとは
〃 命ををはのるね歌はをるるひをを元をば拾をちるるはや
六 ねをばて恋恋うん恋をとをすばかへををとしとちるん
代 はばくへをへををの根はそわすまば拾をちるばとが

恋人
しる

後撰人
惟成
恋会
忠民
実国
大輔
言倉
小初後人
隆信
雅隆
行家
信定
貴之
師俊女
小輔
政義
左衛
元長

恋切り

代 とへかの分とせうぶ[illegible]
〃 [illegible]
〃 ことぶいたれねとかるまきは[illegible]
拾 [illegible]
〃 いかさん命は恨を拾を[illegible]
後拾 君こるかたちかぶくれど
代 うたぐきたれがやとのくいるは逢ることるとぶた
〃 [illegible]
〃 わこぶた[illegible]
〃 人たれど逢と伝まかるまかるる命とかいそん
金 後[illegible]
新 いきそよとのもを人は[illegible]
古 [illegible]
拾 [illegible]

赤瓶
京極
花山院
摂政
[illegible]
和泉式部
師光
ふ[illegible]
男[illegible]
邑[illegible]
宋通
式子内
[illegible]
不知[illegible]

恋切恋

懇切恋

厭恋

被厭恋

〃 [illegible]
金 [illegible]
新 いかさん言を伝ぐき命ぶかれ[illegible]
代 [illegible]
後 [illegible]
〃 [illegible]
拾 人をとそわくを河てへ津の国れかかは拾かぶ[illegible]
〃 いとをいたるねかのぶ知[illegible]
古 秋篠かまを[illegible]
代 人人のきてたちう初[illegible]
〃 [illegible]
〃 いとりを[illegible]
百 初瀬川[illegible]

通親
隆祐
[illegible]
天暦御製
[illegible]
[illegible]
中納言
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
内大臣
[illegible]

獻身恋　　友則

獻賤恋　　漢人

被獻賤恋　　隆親

被獻老恋　　祐雄

見恥獻恋　　大輔

悔恋　　定頼

行基

俊平

漢人

友則

附望

ふる後人

師実

三条院

野 ちはやぶる神代も聞かぬ恋をしてあはでやむべきわびぬるかな　俊成卿　西行

〃 逢ふまでの命ばかりを思ひ入れてあはでやむべきわびぬるかな　西行

代 人知れぬ袖の涙の色ばかりあはでやむべきわびぬるかな　清少納言

〃 あはずして我が身ばかりを思ひ入れてあはでやむべきわびぬるかな　宋清

〃 君の焼く思ひ知らずあはでやむべきわびぬるかな　家持

百 ちはやぶる神代も聞かぬ恋をしてあはでやむべきわびぬるかな　人麿

古 ちはやぶる神代も聞かぬ恋をしてあはでやむべきわびぬるかな　〃

後悔恋

代 ひとしれぬ思ひをかくしてあはでやむべきわびぬるかな　定家

別悔恋

野 あはでやむべきわびぬるかな　西行

絶後悔恋

〃 あはでやむべきわびぬるかな　西行

恨後悔恋

代 あはでやむべきわびぬるかな　清少納言

悔世恋

代 おもひまの物思ひをしてあはでやむべきわびぬるかな　源重之

〃 見せばやと思ひ入れてあはでやむべきわびぬるかな　長方

〃 あはでやむべきわびぬるかな　右京大夫

〃 あはでやむべきわびぬるかな　顕昭

古 あはでやむべきわびぬるかな　元方

後拾 人まもなくあはでやむべきわびぬるかな　忠家女

金 思ひ絶えねねを積んで安めてもあはでやむべきわびぬるかな　弘補

千 歎きをつかねねを積むかな絶えねねをあはでやむべきわびぬるかな　後人ふ西

新 うとびもしらぬ世のあはでやむべきわびぬるかな　〃

〃 うゆくれる人を思ひてあはでやむべきわびぬるかな　西行

新 いたとなく思ひするがれるうとあはでやむべきわびぬるかな　和泉

古 思ひ入れてするがれるうとあはでやむべきわびぬるかな　人麿

代 篠ぶれのうもれぬまをかこつれどあはでやむべきわびぬるかな　元良親王

〃 思ひもよらぬ人のもとをあはでやむべきわびぬるかな　貞信

疎恋

古 とはとそ家方樹面ふかねをぢこと代えしまふ移るひふをう
〃 代をとうく来り人代をこのそぞ秋をう先代をぢこ
〃 いで人をこのそぞ代月第代移へ石いろことかして
〃 世代中の人の石を花ぞ移るひ妻き美ふぞ色々ふ
〃 仮まを人世代を妻ふ秋緑代うりうう人のをろ代
〃 樹面つをこぞるをうを代ふ秋ふ面つぞひびき
後 いでかくんひうをうつ〜ふうくをうこをあしたん
〃 身をうを影やく晩面ぞ人のうをふ人ふれりれ
〃 もうざり〜秋をきねれどう人の石ををふ春りる
〃 面すう川をせふうるをとはをふ代人をいをう
〃 いをうをあまうをふとはをもゆる法ふ物を社れ
拾 移うう人はは楽井とみ〜紅ふやぞを秋ふあるふる
後拾 ををふる法をぞうぞ来代妻ふ世まぞをのを紅ふる
助 月代樹面ふねを紅をのををかる習代色ぞ紅うき

小町 宗千 後人ふ面 〃 重林院をを 人美人後 い四 不知讃人 中興女 四七 続人ふ面 内侍 続通 移続

御愛恋

俄愛恋

続 うをてうをうてうをうをうをうをうをうをうをうをうを
代 一をぞふうをふをあうをを紅をれず加をる ふ妻き人代うをを
〃 来代紅面ぞ〜人のゆ人を来ふ面分をううを法ぞ紅ふる
後 つうきををうを紅ぞををふみ〜ぞを我分ふをきをふ社続代玉法
〃 いを分ふ立をうをつをみをををうをひぐをあふく人のうりゆく
後拾 をひうををまつを紅ふうをあふく波をすぞ〜をいはまをとう
〃 風の美代分ふむ井ゆゆるハ面分ふ社ゆちうあををん
千 加ををりうをきををををいをるる分代金ふわぐふひをるふ
野 ふをれり人ゆを立代泳れぞ世ををくふをを世ををををれ
金 ゆ代ふうう加をるんを涙川ぞれをゆをををひをるふ加
野 ゆををいゆ海ぞふいをぞ加をうゆふ紅ふ法を法をををん
代 深をうゆ製ハ妻くをををふ法ぞ続ゆ中をうふ面
〃 辺ゆをる年月何をををうをんををゆ紅の面ぞ〜をふ
〃 君ふうを人代人代ゆ年月をぞ紅ゆをうを紅代

小式ノ 建保歌合 信要 後法 信長 紅光 を漢人後 大輔 範宣 江侍従 家子 内侍 女御 拾遺

逢後雲恋　　定家
雲契恋　　右近
ふ雲恋　　元輔
晩風催恋　　貫之
恋催恋　　貫之
風聲催恋　　貫之
郭公催恋　　貫之
秋風催恋　　貫之

代　先代集にかかる詞をもとりあつめて紙に
〃　いふかたんをもとめて恨めそもの世をぐにもろもろ
後　ものうとにかれ人にあとをきくいひつもいひつることの
後拾　歌きれるみか紙をもとめて来のまに浦ちきせ
初　後代世を新集先代をもとめて
古　笑をうたをうかをそりもらうの浦うんとえおもえるかか
後　うたをうこうをもんとうとうをかたをうてをうこうれ
千　ととをもふれたれうたをを恋集ものうれます秋のゆへを
代　初撰川家ものとをこりのつのゆりてとねを紙をかた
野　かをくをうをのふをこをかををを交ねをでかをせた秀
代　先をもあををを先をかを先風のをををとをれをでをををりる
古　子親人をつのふを鳴をれをでを家をををりけを
〃　秋ををの分かををんをばをををををををををををををを
千　煤風のをうをを人をををををををををををををををををを

鯛物催恋　　内侍
鷲恋　　好忠
稀鷲恋　　鎌倉右
時々鷲恋　　忠岑
絶後鷲恋　　ロ任
　　埴生ロ
　　左強母
　　道命ロ
　　後人ふを
　　さかをを
　　皇后宮
　　ふを後人
　　〃

代　ををををををををををををををををを

拾 義とあくこひあふ世中を行とさふおどろうすん　実忠女
野 こひ出を誰ゆ祝ごとのすゑうん世日ゆをの社乃ひぜ　家隆
〃 といたこひを張て世中なるあれぐれりて長絵ん　輔親
拾 ゆづごとあぐふいづさぎむん人のんを人ちるゆい　ちの
後 若日世の元大て野ゆるう拾をうれそていぐぼとう社れ　後人不知
新 家高のりえて元ゆまびみびぶの物といぼ色る高　家冥公
代 秋風ふうれてうびく萩のいれそをくさそていづらうん　元亨釋王
古 ふふいあづることでまるふ宮る家ふ野どとこひ物を　よ漢人仮
後 えうれかるる家代ゆふうれてうつふまるる分とゆ物ん　〃
〃 拾てて物ふふて物ふ宮ぬ一れて家ま系宮ま祝居をまのちうしば　義内侍
古 ゆ代せのよきん代行のふ人ゆづらあせきとぶむん　讃人不知
〃 こだ人ゆづらのるうんばるえこと見れづうえこと海ゆ　〃
後 いひうーてとゆるる物ふ代ゆふいづるふ元ひとるうん　〃
〃 和歌や世代むそね冥と物絶　家基

恋妨道心
恋妨菩提
隠恋

〃 世というをせこひ物ふ拾ゆ人を恋てるれ　仁昭
後 ちうんれ恋のうちうしをそそんの月いけうえるべき　勝長
冥 えれたきのゆづきうを空ふづ物ゆかくせるけまゆのゆさ　よ漢人仮
〃 てれる月とう人うえんゆ　をどう
後 からう人の見る扉ハいうひ世ふわそのうまゆそゆうまゆれ　〃
〃 数うう物冥ハれ茶と物るれん世をれ人ふうをうれば　〃
〃 年をているうひうれ家冥をバ物うハひとふゆううとれん　〃
野 いづうふりうれうん芦の中ふ冥れわをバうそ人ふけうを　〃
後 ううと物く書明のふたうぎすゆふくうん昭秀ゆて　〃
冥 ゆれ川とふふいれんれど冥ゆやうーみわううばゆうき　恒良
後拾 うれ拾る響の見くれそゆううとう長ゆて冥を冥をうん　法力納言
野 家高ハそこれゆうう行ゆぎいうそぎそうわ長ううやと　侍従
〃 ゆひるるれゆ冥ふ冥うをの野ゆううをゆうをゆハをれ　致平親王
金 りんうくうきゆるふそひうまゆれいうんの拾ゆうくる　六条

不言在所恋
不令知恋

隠恋
隠恋

争恋
負恋
有妨恋
被妨人恋
恋為後世妨

在所不定恋
不知在所恋

忘在所恋
不知栖恋

稀恋

新稀恋

雅経
実冬
家人
家宗
元雅
少将
家隆
和泉式部
小町
伯楽
寛和
貫之

逢ふ瀬をまちわびかねてぬるまくの
あけぬるかぎりなりけるかな
〃
なにはがたみじかき芦のふしのあひだも
あはでこやのねをぞなくらん

千 年ふれど長月かなかはらでとはるまもなくぬるよしもなし　中務
形 長月かなかはらでとはるまもなくぬるよしもなし　菅原大臣
〃 ふりてゆくる年ぞ　太上天皇
〃 夜ゐのまもなきぬるよの年ぞ　新勅撰
初 あるなれなれおもふらむ　定家
〃 いそぐかな歳年ぞ　家長
〃 ぬるとすと涙ぬらんぬれわらはまも　雅経
〃 歌くまかなぐみぬぐとおもふねぬ　崇徳院
六 年月はあるねぬかをねるとおもふ　後鳥羽院
〃 いつ計ぞ　〃
〃 奥の名ちるなるぬれわらはもとめそ　〃
代 年ぞ　後鳥羽院
〃 とぐらいかはれ月日ぞ　宮内卿
〃 まれど人のかはれてぬるかな　後宋

舊恋

〃 年ふれど恋はなほ　家隆
〃 かくてはぬ世をぬるさんかな　太政大臣
〃 とりもや昔ぬるかなかはるまもつ　重家
〃 待世かなひとをぬるかな　長方
〃 年ぞ　小宰相
古 ぞろのそれのあるぬるぬるぬるぬ　〃
〃 いかにぬるぬるぬるぬるぬるぬ　〃
結 月は昔かなかはるぬるぬるぬ　〃
六 ぞかきぬるぬるぬ　〃
初 川をぬるぬるぬ池の清ぬるぬ　後宋
代 ぬるぬ昔ぬるぬ　読人しらず
〃 ぬるぬ　前宮
〃 ぬるぬ　後宋
〃 ぬるぬ　友則
結 ぬる笑する月を　和泉式部
代 ぬる川のやなぎぬるぬ　行能

恋五

近恋

近隣恋人　　漢人仮

遠恋　　朱雀院御製

読人不知

遠恋人

嘆恋

端一夜恋　　範家

端二夜恋　　読人しらず

端日比恋　　湯原王

隔月恋　　読人しらず

端年恋　　斐子

端二年恋　　読人しらず

端日比恋　　朝忠

隔月恋　　読人しらず

端年恋　　清義

端二年恋　　忠房

端日比恋　　伊房

隔年序恋　　摂政
隔篝恋　　読人しらず
隔山恋　　〃
隔川恋　　〃

隔関恋　　隆信
隔路恋　　高松宮
隔遠近恋　　〃
隔海恋　　〃
隔面近恋　　〃
隔震恋　　〃